

番号	選者	俳句	チーム名	作者
1		朝日差し傷失った氷柱かな	大阪桐蔭	稲波宏紀
2		冷凍庫子はみてみてと氷柱かな	〃	岡本真奈
3		人間に産声のあり氷柱かな	〃	謝花優里
4		昨日より細身の氷柱デートの日	岡山朝日	末廣陽奈
5		氷柱張るホテルの部屋に四の無く	〃	吉田有希
6		魔法陣窓になぞりぬ大氷柱	〃	寺石有希奈
7		あをぞらに満ち満ちてゐる氷柱かな	長田	松井美優
8		見る度に降りる氷柱の淡い幕	〃	本田美佳
9		合宿の窓に手を触れ初氷柱	〃	平本みのり
10		犇ける獣の星座いわつらら	灘A	岩瀬一誠
11		ヨットの帆しまはれてをり草つらら	〃	大杉悠真
12		二重窓 氷柱の中に虫のゐず	〃	田村謙悟
13		人形のかすかに見ゆる氷柱かな	灘B	白坂悠人
14		合唱のとぎれとぎれに氷柱かな	〃	渡邊広脩
15		恐竜の世界に恋のあり氷柱	〃	物部知達
16		焼印のごと手のひらを氷柱へと	洛南	塩島彰浩
17		草氷柱みんなが走るから走る	〃	田村典
18		銀竹や腕をぶら下げるがごとし	〃	前田佑介

番号	選者	俳句	チーム名	作者
1		湖の堅く白鳥迎へたる	大阪桐蔭	秋葉紅杏
2		白鳥や水鉄砲じゃむりだった	〃	稲波宏紀
3		悪役になれぬ白鳥来たりけり	〃	謝花優里
4		白鳥や珈琲缶をそつと開け	岡山朝日	吉田有希
5		白鳥や目尻のラインはね上げて	〃	寺石有希奈
6		夕暮のチャイムよぎりぬ大白鳥	〃	平野直太郎
7		夢を見る君もいずれは白鳥か	長田	本田美佳
8		漕ぐ君の結わえた髪にも白鳥	〃	平本みのり
9		白鳥やどの白よりも白く在る	〃	松井美優
10		白鳥の百と二百と靄の中	灘A	岡本龍太郎
11		なにかも忘れて鵠みづを乞ふ	〃	大杉悠真
12		白鳥の去りて真水の残りけり	〃	安東俊喜
13		白鳥の脳飛ぶときは押されたり	灘B	物部知達
14		白鳥やチャイムここまで聞こえたる	〃	白坂悠人
15		白鳥の来てみずうみの硬きかな	〃	渡邊広脩
16		眠りつつみそかにすすむ鵠かな	洛南	河本高秀
17		白鳥や皺ひとつなき旧紙幣	〃	塩島彰浩
18		白鳥翔つ薪に移ろふ炎のごとく	〃	田村典

番号	選者	俳句	チーム名	作者
1		郷関を押し広げたる初雀	大阪桐蔭	稲波宏紀
2		水仙や玄関前のランドセル	〃	秋葉紅杏
3		山眠るダムの関門錆びてをり	〃	謝花優里
4		冬天や玄関を掃く音かろく	岡山朝日	末廣陽奈
5		冬菫機関人形いざ行かむ	〃	平野直太郎
6		初日の出永久機関見つけたり	〃	吉田有希
7		宝物埋めし枯野や関ヶ原	長田	平本みのり
8		立冬や下関を背に帰路に着く	〃	本田美佳
9		関節が痛む新年のびざかり	〃	松井美優
10		凍空のもと関節が鳴ってしまふ	灘A	岡本龍太郎
11		機関車にヘッドマークや芝青む	〃	田村謙悟
12		聖夜のパエリア 関所は生けるものの道	〃	大杉悠真
13		玄関に靴の増えたる晩夏光	灘B	白坂悠人
14		機関庫に冬日のうすく張ってゐる	〃	渡邊広脩
15		機関砲台座跡割れ月凍る	〃	物部知達
16		北風や機関時計いつも二時	洛南	塩島彰浩
17		玄関を河豚河豚と言ひながら来る	〃	田村典
18		凍豆腐食へばほぐるる股関節	〃	河本高秀

番号	選者	俳句	チーム名	作者
1		九天の欠片の落ちて雑煮餅	大阪桐蔭	稲波宏紀
2		雑煮餅母に秘密のありにけり	〃	岡本真奈
3		雑煮食ふ兄ペンだこの指添へて	〃	秋葉紅杏
4		餅みつつ足して雑煮に勢力図	〃	若園風司
5		童謡に方言のある雑煮かな	〃	謝花優里
6		雑煮餅をさなの頬に墨のあと	岡山朝日	末廣陽奈
7		キャプテンに勝たせてもらひ雑煮椀	〃	吉田有希
8		雑煮食ふ昼や暮は長考のまま	〃	末廣陽奈
9		雑煮食ふジグソーパズル未完成	〃	寺石有希奈
10		御先祖へたつたひとつの雑煮餅	〃	平野直太郎
11		親も子もみんなで囲む雑煮かな	長田	松井美優
12		昼前の冷めぬ雑煮の作り置き	〃	本田美佳
13		ちやぶ台の目鼻の如く雑煮かな	〃	平本みのり
14		はしやぐ子の赤いほっぺに雑煮かな	〃	松井美優
15		白味噌の雑煮の朝や父踊る	〃	平本みのり
16		父親に京都訛りや雑煮祝ふ	灘A	安東俊喜
17		いづくにか置かむ雑煮の鰯の骨	〃	田村謙悟
18		コンロまで雑煮よそひに歩きけり	〃	岡本龍太郎
19		ひとはみな脳髓浮かべゐて雑煮	〃	大杉悠真
20		予備の予備のトイレットパー京雑煮	〃	岩瀬一誠

